

# 新能

たかさき

【日時】平成2年10月12日(金) 17:30開演  
(16:30より能に親しむ集い)

【1】高崎観音山・カッパビア第5駐車場  
(雨天の場合は群馬音楽センター)

【料金】3,500円

## 当日のスケジュール

- 16:30 講演／能に親しむ集い (30分)
- 17:00 休憩 (30分)
- 17:30 あいさつ・火入れ式 (30分)
- 18:00 狂言 (30分)
- 18:30 仕舞 (10分)
- 18:40 休憩 (15分)
- 18:55 能 (60分)
- 20:05 終演

## 演目・出演

【狂言】寝音曲(大藏流)山本則直(重要無形文化財)他

【仕舞】経一政(宝生流)小倉欽克

羽法師(宝生流)本間英孝(重要無形文化財)

玉ノ段(宝生流)高橋 勇(重要無形文化財)

【能】千手(観世流)藤波重満(シテ・重要無形文化財)

## 講演：能に親しむ集い

開演の前(16:30～17:00)に、群馬大学名誉教授・有川美穂氏により、  
〈能〉千手、〈狂言〉寝音曲の演目解説を致します。

## 能 千手

平清盛の五男である三位中将重衡は、一の谷の合戦で捕えられ、虜囚の身にあるが、その毅然とした男ぶりに感心した源頼朝は、東国一の美人と誉れの高い千手を慰問に派遣する。

千手の舞に心を開いた重衡は、自ら琵琶を弾じて、美女とのほかない音楽の宴を持つ。やがて、重衡が奈良に護送され僧兵により斬られたあと、千手は尼となり、終世、菩提を弔ったという。

## 狂言 寝音曲

ある時、太郎冠者の謡の声を聞いた主人が、何とか話わせようとするが、冠者は酒を飲まなければ話えないと言って断る。しかも妻の腰枕でなければ話えないと言う。

主人は、冠者に酒を飲ませ腰枕をしてやると、冠者は横になったままで談い出す。そして、体を起こすと声はかすれ、寝かせると声はでる。これを繰り返すうちに、冠者は取り違えて、立ち上って舞い出し、最後まで舞う。

【主催】観音山連絡協議会

【協賛】サンコーカントリークラブ・日本たばこ産業株式会社・  
日本電信電話株式会社NTT高崎支店・東京電力高崎営業所・  
高崎ハム・群馬ゼロックス株式会社 その他

【プレイガイド】高崎駅構内観光案内所・高崎文化会館・山徳記念館・  
慈眼院・学陽書房・高島屋・スズラン

【お問い合わせは】観音山連絡協議会事務局(カッパビア内) ☎0273-23-4123